園長と語ろう

―子ども思いに応えたい―

園長　家田　美里

むらさき幼稚園には仏教行事が年に四回あります。年長児が「代表さん」と呼ばれ、白い衣装を着て黄色の袈裟をまとい献香・献灯・献華を行います。子ども達は代表さんを務める事で自信がつき、その自信が力となり初めての事に挑戦することができたりと大きな成長に繋がっています。

四月には御忌会（ぎょきえ）という法要が金戒光明寺で行われます。これは法然上人がお亡くなりになられた忌日法要です。年長に進級してすぐに大きいお寺へ行き、代表さんにならなければなりません。来年度から日程が十日程早まり、年中の時に代表になるか決め練習を始めなければならなくなりました。五月には花まつり（お釈迦様の誕生をお祝いします）があり、お家から花を持ってきていただきみんなで花御堂に飾ります。十二月の成道会（お釈迦様がおさとりを開かれた日）では前日にお供えの鏡餅をつきます。二月の涅槃会（お釈迦様がお亡くなりになられた日）には、豚汁を作りお供養としていただきます。

さて、年長児はこの四つの法要で代表さんを行いますが、一人一回は代表になってもらいます。その中で自分がどこで代表さんになれるのか考えて決めます。一回で最低六人は必要になります。近年は一人二回や三回代表になる事が可能になっています。今年の年長は特に人数が少ない為、御忌会が終わった時にはクラスの大半が代表経験済になりました。四回全てで代表さんになる強者もいました。これは本人のやる気とお母さんのサポートのおかげで実現しました。今回の涅槃会では、初めは「代表はやらない。ひとりで歌の代表をする」と言っていた○くん。お母さんに聞いていただくと、袈裟を留める安全ピンが嫌だったらしく担任と相談し、クラスみんなで話をしたのでしょう。どんな話し合いをしたかはわかりませんが、全員で目を輝かせ私の元へ走ってきました。一番に○くんが「みさとー、おれ、せいふくでだいひょうする」と言い「ぜんいんでだいひょうするー」とみんなが口々に言いました。「十一人やし誰がひとりで歩くの？」と聞くと「おだ（担任）もだいひょうさん」と驚く返事が返ってきました。みんなの顔を見ていたら「わかった、がんばって」と伝えていました。全員が代表になることが決まり、今までそらのくみに頼っていた「歌の代表さん」がもものくみが主になり、しろはとのくみ、しろうさぎのくみに決まりました。代表さんの練習を始める準備をしているともものくみの子ども達もござを敷き数珠を持ってきて一緒に準備をするようになりました。練習を見に来た三歳児も「おじゅずもっておいで」と誘うと何かを感じたのか神妙な面持ちで参加しました。そして当日、みんなで練習した涅槃会は無事に終わりました。

そういえば二年前の涅槃会では、二回目の代表になりたい子が多く、ケコは足りず、衣装も足りない状況でした。何度相談しても代表だけは譲れず困り果てた担任と私の元へやってきました。「実はケコが足りません。衣装も足りません」と伝え「お母さんに頼めますか？」と聞きました。するとケコはお盆でいいよと譲り合い、衣装は自分達でお母さんに作ってほしいと頼みました。しかし、その衣装づくりは想像以上に大変で、代表児の保護者が一丸となり完成しました。おかげ様で今は年長全員が代表になっても、衣装には困りません。

この時期になると自分で考え決める事ができるようになっています。むらさきっこはおもしろい事を思いつき、どうすればできるのか考え、私たちに提案してきます。子ども達の声により前代未聞の担任も代表という涅槃会になりました。先輩の先生に「仏教行事はとても大切です。ふざけないようにしなさい」と言われてきました。ふざけた訳ではありませんが、中々の大胆な代表になりました。本人達が大満足だったので怒らないでくださいね。

